

【地域創生×SDGs セミナー】 in 熊本
「地域の取組みが世界を変える
～「産官学金民」のSDGs 取組事例を中心に～」

パネルディスカッション 登壇者紹介

◆開催日時：2018年12月5日（水）13：30－17：30

◆主催：ジェトロ熊本、ジェトロ・アジア経済研究所、JICA九州

◆後援：熊本県、熊本市、小国町、熊本県立大学、九州経済産業局、
九州地方ESD活動支援センター、熊本県商工会議所連合会、
（一社）熊本県貿易協会、肥後銀行、日本政策金融公庫熊本支店、
（一財）熊本市国際交流振興事業団

「産」：自然と未来株式会社 活動概況

自然と未来株式会社は、熊本県内から一般家庭などから天ぷら油を回収し、環境に配慮した軽油代替燃料「くまエネ 100」へ精製。そのエネルギーを地域へ還元する事業を行っている。「わくわく油田プロジェクト」と名付けられたこの取り組み。年々参加者の数も増え続け、広がりを見せている。誰もが気軽に始められ、いつでも参加できる取り組み。今自分が起こしたアクションが、多くの人々との関連や繋がりを持ちながら、世界全体を豊かに変えていく取り組みとなっている。SDGs 視点で見た場合、主軸にグローバル目標 No.7 を据えながら、他の目標も包括的に捉えた事業を展開していると言える。

自然と未来株式会社 三苦 智子 氏 プロフィール

熊本県生まれ。2003 年 熊本大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了。有機合成化学専攻、理学博士。目に見えるもの、見えないもの、すべてに意味がある。無駄なものは何一つない。あらゆるものが真の豊かさを享受しあう世界。これからの未来に向けて自分たちができること。これら答え無き問いを解く上でのひとつのヒントを、「くまエネ 100」の取り組みを通じ、会社の仲間たちと共に世の中に向けて発信している。

「産」：株式会社日本リモナイト 活動概況

株式会社日本リモナイト(熊本県阿蘇市)は、2016 年度に JICA(独立行政法人国際協力機構)の中小企業海外展開支援事業~普及・実証事業~に採択され、2017 年 7 月から、マレーシア国グアムサングにて「マレーシアのケナフと日本の天然ミネラルリモナイトを活用した水質浄化普及・実証事業」を実施している。本事業を通してカウンターパートナーと共に創造する機会を創出し、SDGs の「Goal 9 産業と技術確信の基盤をつくる」ことに取り組んでいる。また本事業では、マレーシア国で深刻な環境問題の原因の 1 つになっているパームオイル工場排水を対象として、弊社の脱色・脱臭処理装置を利用し、運営維持管理がシンプルかつ安価な排水処理モデルを提案することを目的として実施している。

株式会社日本リモナイト 熊本営業所 津田 美矩 氏 プロフィール

1987 年生まれ。業務主任者として JICA 中小企業海外展開支援 中小企業海外展開支援 事業 -普及・実証事業-マレーシアのケナフと日本の天然ミネラルリモナイトを活用した水質浄化事業に従事。

「官」：熊本県小国町 活動概況

これまで小国町では、「環境モデル都市」としての行動計画に基づき、町独自の地域資源を活かしながら、木質バイオマスの活用などの、主に環境面に貢献する施策を進めてきた。SDGs 未来都市への選定を受け、今後は SDGs の理念に基づき、地熱と森林というユニークかつ豊富な地域資源を、発電や熱供給といった事業により積極的に活用することで、これまでの経験や取組の成果を社会面や経済面にも波及させ、持続可能なまちづくりをさらに推進していくことを目指している。

熊本県小国町 政策課 審議員 白浜 真治 氏 プロフィール

2000年4月熊本県庁入庁。地域振興部交通対策総室、東京事務所（銀座熊本館）、東京大学公共政策大学院派遣研修、健康福祉部健康福祉政策課勤務等を経て、2017年4月より小国町役場に派遣。政策課にて環境モデル都市・地熱資源等を活用した地域振興・SDGs 未来都市の推進等に従事。

「学」：熊本県立大学 活動概要

平成26年度に大学の機能強化を図ることを目的として地（知）の拠点と言われるCOC事業を開始し、本事業の中核となる人材育成の目的を表す概念としての「もやいすと育成プログラム」では、熊本の自然や文化、社会に対する理解に立ち、専門の枠を超えて、自ら課題を認識・発見し、地域づくりのキーパーソンとして、地域の人々と協働して課題の解決に取り組む人材の育成を目指してきた。来年度には、グローバル関係の取組を推進するための「国際教育センター（仮称）」を新設予定で、「もやいすと：グローバル」プログラムを計画しているため、SDGs の概念や考え方を教育プログラムに反映できないか、関連付けを検討している。

熊本県立大学 文学部教授 石村 秀登 氏 プロフィール

文学部 日本語日本文学科所属。専門分野は教育学、教育哲学。主な研究テーマは知識獲得に関する認識論的研究、教育実践の現象学的・解釈学的研究。地域貢献に関心を持っているテーマは、【教育問題】 【地域づくり】 【食育・食の安全】

環境共生学部教授 石橋 康弘 氏 プロフィール

環境共生学部 環境資源学科所属。専門分野は環境化学、資源循環化学。主な研究テーマは、排水及び廃棄物の適正処理とスラッジ等の再資源化、

廃蛍光灯からの水銀回収、閉鎖性水域におけるゼロエミッション、未利用資源を用いた水質浄化資材の開発、LCA手法による環境影響評価、ダイオキシン類の無害化処理技術、ダイオキシンフリー焼却炉の開発、メタン発酵技術の高効率化。地域貢献に関心を持っているテーマは、【循環型社会】 【水環境】 【バイオ】

「金」肥後銀行 活動概況

これまで、熊本地震により被災した熊本城や阿蘇神社などの文化財復興支援に向けた寄付、阿蘇における水資源保護活動等、様々な社会貢献活動を行ってきた。また、本業においても、熊本地震からの抜本的な復旧・復興支援に向けた各種ファンドの設立の他、阿蘇グリーン定期による阿蘇世界農業遺産基金への寄付、学び舎応援私募債による教育支援等、地域経済の発展に積極的に貢献。これらの持続可能性を推進する取り組みをさらに充実するために、本年10月に専門部署「サステナビリティ推進室」を新設し、SDGsを踏まえ持続可能性を事業活動の中心に据え、地域の持続的発展に貢献することを目指している。

肥後銀行 経営企画部サステナビリティ推進室 副企画役 高田 賢治 氏 プロフィール

2001年、肥後銀行入行。2018年10月より、経営企画部サステナビリティ推進室に着任し、お客様、地域社会および弊社における持続可能性向上に向けた企画や推進管理を担当。行内での理解・浸透を図るとともに、これから地域の皆様との積極的な対話を行いながら、持続可能な社会づくりの輪を広げていきたい。

「民」一般社団法人 BRIDGE KUMAMOTO 活動概況

「橋が無くなっても、私たちはつながっている」をコンセプトに、熊本地震の1ヵ月後にBRIDGE KUMAMOTOが設立。40万世帯を超える住宅損壊被害を出した、熊本地震の象徴でもある、ブルーシートの屋根のイメージを転換させるために、「ブルーシートをブルーシード（復興のたね）に。」をスローガンに、廃棄ブルーシートを回収・洗浄・縫製し「ブルーシードバッグ」を作っている。売上の一部を被災地に寄付する活動を続けている。これまでに作ったバッグは2,000個以上、寄付金は150万円超。SDGsについては、「11.住み続けられるまちづくりを」「12.つくる責任つかう責任」「14.海の豊かさを守ろう」を参考にしている。

一般社団法人 BRIDGE KUMAMOTO 代表理事 佐藤 かつあき 氏 プロフィール

1978年長崎県佐世保市生まれ。福岡・東京で広告制作のデザイナーとして働いたのち、2010年より熊本に移住後、独立。デザインをベースに、企業・商品のブランディングなどを手がける「株式会社かつあき」設立。2016年、熊本地震をきっかけに、復興支援団体「一般社団法人 BRIDGE KUMAMOTO」を設立。2016年第56回 ACC CM FESTIVAL 入賞。2017年グッドデザイン賞+BEST100+特別賞（復興デザイン）受賞。